

授業科目名	社会学		担当教員名	西牟田 真希
科目区分	社会福祉主事任用資格に関する科目	施行規則に定める科目区分 等		
必修・選択/単位数	選択 / 2単位 (30時間)	授業方法/担当形態	講義 / 単独	
開講学年/学期	1年 後期 (3-4期) / ※令和8年度は開講しません	特記事項		
授業の概要及び全体目標	社会学の基本的な概念や用語を理解して、社会の様相と社会問題をどのようにとらえられるかを学ぶ。現代社会の課題や社会問題について考察できることを目標とする。			
到達目標	社会学で扱う概念を駆使して、多様なものの見方や価値観が理解できるようになる。			
テキスト	使用しない。授業中適宜プリントを配布する。			
参考書・参考資料等	『歴史と理論からの社会学入門』（木村至聖, ナカニシヤ出版,2022）。その他は、授業中適宜指示する。			
成績評価の方法	平常点 (授業の取り組み姿勢) と授業プリント:40%、および理解度・到達度課題 (文章レポート) :60%			
授業外 (事前・事後) 学習の方法、オフィスアワー等	事前学習については授業で指示する。事後学習としては、授業で終わらなかったプリントや課題がある場合、次回までの宿題とする。			
授業計画	授業の内容			到達目標番号
第1回	オリエンテーション 社会学とはどのような学問なのか。カルチャー・スタディとは何かを考える。			
第2回	進学と就職 (1) 社会は行為でできている 個人の選択した行動・行為は、社会の影響を受けているのか？			
第3回	自殺率 (2) 社会をモノとしてみる 不景気よりも好景気のほうが、自殺率が高いのはなぜか？			
第4回	流行現象 (3) 社会はプロセスである 都会における流行はどのように広まるのか？			
第5回	価値観の相違？ 不自由であることに気づく 価値観とイデオロギー (社会全体の考え方の型) について考える。			
第6回	競争・闘争 (1) なぜ社会が成り立つのか 社会全体の基盤となるさまざまな主義 (資本主義、民主主義など) について考える。			
第7回	常識と偏見 (2) 構造と機能というメディア 社会全体の基盤となるさまざまな主義 (構造機能主義、中範囲の理論など) について考える。			
第8回	個性と多様性 (3) 意味をめぐる相互作用 主観と客観はどうやって形成されるのか？			
第9回	「自由」と「社会」の変質 現代社会では資本主義しかないのか？「どちらでもいい」や「第三の道」があるのか？			
第10回	身体とコミュニケーション (1) 複合化する行為 わたしたちの身体は社会的・文化的に規定されたものであるという視点を学ぶ。			
第11回	リスク管理 (2) 私たちが生きる近代とは 社会の目まぐるしい変化や流動性のもたらす不安やリスクについて考える。			
第12回	交換と贈与 (3) プロセスを捉える様々な枠組み 贈り物を送る (贈与する) ときに、何を交換しているのか？			
第13回	居場所と位置取り (1) 複雑な社会をどう捉えるか 経済界や文学界、芸能界などの「界」とはどのような世界 (社会) か？			
第14回	監視と処罰 (2) 近代社会の規律と訓練 監視カメラを置くことで、なぜ犯罪の抑止力になるのか？			
第15回	総まとめ			